

## 第2学年 音楽科学習指導案

### 1 題材名 ようすを おもいうかべよう

教材名 鑑賞「人形のゆめと目ざめ」(エステルン 作曲 佐井孝彰 編曲)

表現「夕やけこやけ」(中村雨紅 作詞 草川信 作曲)

表現「海とおひさま」(高木あきこ 作詞 橋本祥路 作曲)

表現「小ぎつね」(勝承夫 日本語詞 ドイツ民謡)

### 2 題材について

#### 《学習指導要領とのかかわり》

A 表現	(1) ア	範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。
	イ	歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。
	ウ	自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。
	(2) ア	範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。
B 鑑賞	ウ	身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。
	ア	楽曲の気分を感じ取って聴くこと。
[共通事項]	イ	音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。
	ウ	楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。
	ア	(ア) 音色 速度 旋律 強弱 拍の流れ フレーズ
	(イ)	反復

#### (1) 題材観

本題材は、音楽を想像豊かに聴いたり、思いをもって表情豊かに表現したりすること、また、歌詞の表す様子や気持ちを想像して歌い方を工夫して歌うことに焦点を当てて学習を進めていく。

日常生活の中には、あらゆる音楽があふれている。児童も様々な音楽に囲まれている一方で、一つ一つの音楽に対してじっくりと向き合うことは少ないと考える。

これまでに、児童は1年生のときに、2年生と同じ題材である「ようすをおもいうかべよう」で、歌詞を読んで様子を想像して歌う学習をしている。歌唱教材「はる なつ あき ふゆ」では、季節によって変化する情景を想像しながら、歌詞を大切にしながら歌う学習を通して、思いをもって歌うことの楽しさを経験している。

2年生では、そこで学習したことを生かし、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら、楽曲の気分や言葉の感じを生かした表現を工夫して歌う学習を深めていく。また、言葉の感じを生かした歌い方や声の出し方について表現を工夫することは、高学年で語感を生かして歌う学習にもつながる。1年生で学んだ思いをもって歌うことの大切さをおさえるとともに、発音や発声に気を付けて歌う習慣を低学年で身に付けておくことは、中学年や高学年のみならず、中学校での学習につながるものとする。中学校の学習では、「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと」をねらいとしている。小学校の6年間で扱われる、歌詞を大切に、歌詞の表す様子や気持ちを想像して歌い方を工夫する一連の学習により、より豊かな表現を味わう喜びを知ることができ、中学校での学習がより主体的に深まりあるものになると考える。

(2) 児童の実態 (男子 16名 女子 15名 合計 31名)

本学級は、明るく意欲的に取り組む児童が多い。その一方で、自分の考えに自信をもって発表することが苦手な児童も数名いる。また、朝の会では「今月の歌」を毎日歌っており、楽しそうに歌う姿が見られる。事前アンケートの結果は以下のである。(実態調査日 H.29.7.14/8.31/9.1)

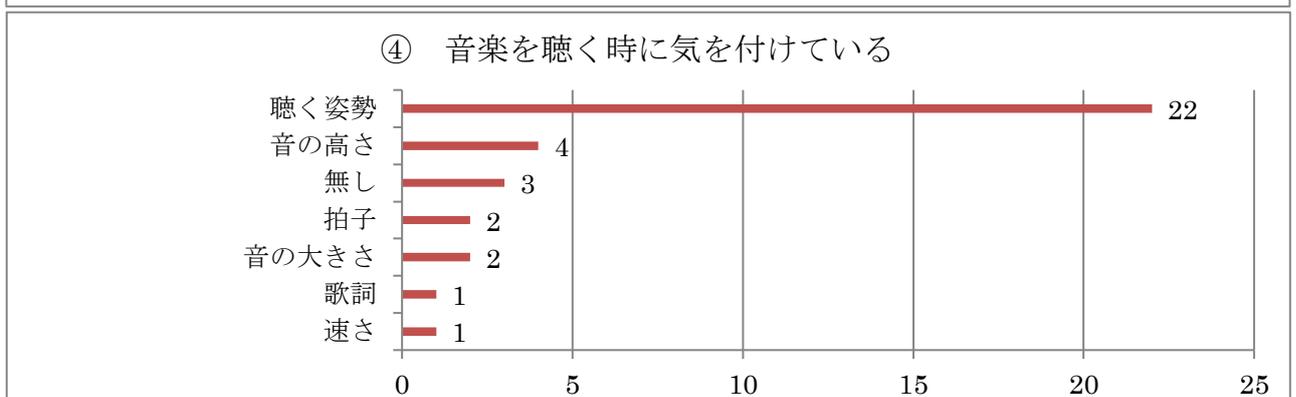
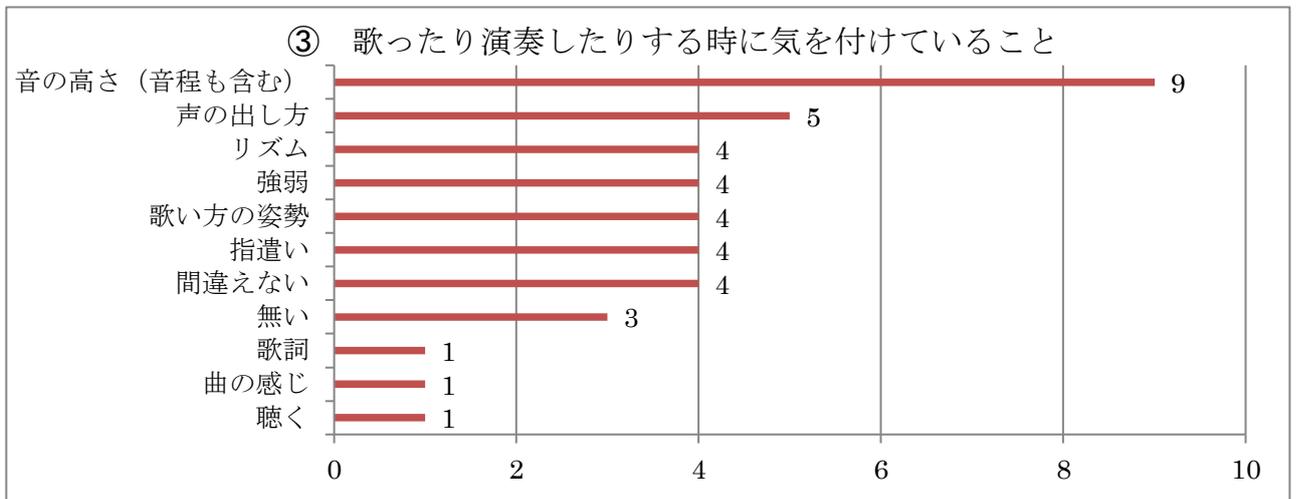
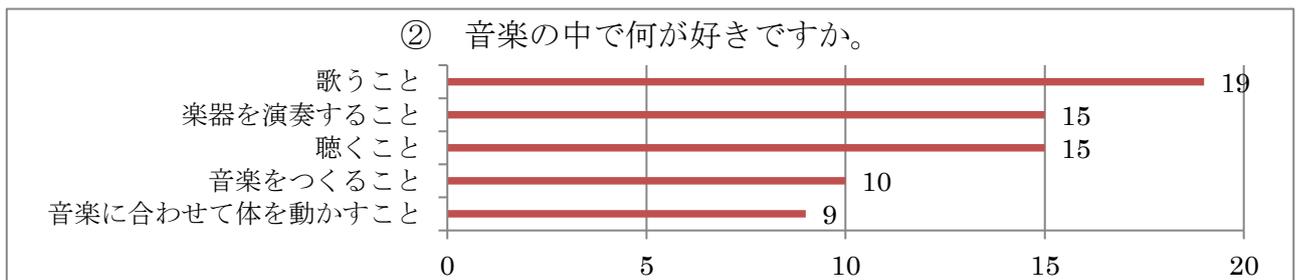


「好き」と答えた人の理由

- ・楽しい ・歌うことが好き ・色々な楽器があるから ・リズムがあるから ・得意だから
- ・色々なメロディーがあって面白い ・テンポが速くなったり遅くなったりするから
- ・色々な音があるから ・元気になるから 等

「嫌い」と答えた人の理由

- ・鍵盤ハーモニカが嫌い ・歌う時に喉が渇く ・息ができない



[聴く姿勢の内訳]

しっかりと (6名) 静かに (4名) 耳を澄ませる (3名) 姿勢を正す (2名) リズムをとりながら (2名) 目を閉じる (1名) 座る (1名) 歌う人やみんなを見て (2名) 揺れながら (1名)

⑤ 「～な感じ」を違う言葉で表すとしたら、どのような言葉がありますか。[言葉に対するイメージ]

「楽しい」

- ・うれしい (9)・おもしろい (9)・わくわく (8)・うきうき (3)・幸せ (2)・明るい (2)
- ・笑う (2)・ドキドキ (1) その他

「明るい」

- ・うれしい (7)・元気 (5)・楽しい (4)・笑っている (2)・笑顔になる (1)・にっこりする (1)
- ・らんらん (1)・きらきら (1)・うきうきわくわく (1)・さわやか (1)・おもしろい (1) その他

「うれしい」

- ・楽しい (9)・よろこび (8)・やったあ (5)・ありがとう (4)・やさしい (2)・わくわく (2)
- ・ハッピー (1)・幸せ (1)・気持ちいい (1)・おもしろい (1) 明るい (1)

「やさしい」

- ・親切 (13)・おもいやり (3)・明るい (2)・さわやか (2) 心が広い (1)・ゆうが (1) その他

「かなしい」

- ・くらい (6)・さみしい (4)・がっかり (4)・くやしい (4)・泣く、なみだが出る (4)
- ・ごんねん (3)・いや (2)・いたい (2)・切ない (1)・つらい (1)・ショック (1)

「くらい」

- ・こわい (6)・かなしい (4)・さみしい (2)・落ちこむ (2)・つらい (2)・きずつく (1)
- ・ひとりぼっち (1)・ずーん (1)

「さみしい」

- ・くらい (10)・かなしい (5)・一人ぼっち (5)・なきそう (4)・こわい (4)・こどく (1)
- ・わびしい (1)・心がつめたい (1)・いや (1)

⑥ 歌唱曲「はる なつ あき ふゆ」の表現の工夫について [表現の工夫に関する項目]

1 番【春】

「たんぽぽ ゆれる」→風がふきそそぐ感じで・気持ちよさそうに⇒やさしい声で

「わたげが ふわり」→ゆっくりと風で空へ飛ばされる感じ・まいあがる感じ  
⇒「ふわり」の歌い方を、うく感じで (手をつけながら)

2 番【夏】

「おおきな くじら」「ごぶんともぐる」→大きなくじらがバシャーンと水を立てている  
⇒大きな声で・元気に

「たいよう きらきら」→太陽が光る感じ⇒声を高めに・やさしく

3 番【秋】

「こりすが ちょろり」→小さいりすが動いている⇒声を小さく

「いそいで おでかけ」→走っているように⇒少し速く・切るように

4 番【冬】

「ちいさな ほしが」→小さい星⇒小さな声で

「おそらで ひかる」→星が光っている⇒さわやかに・力をぬいて・声を高くする

「きたかぜ つめたい」→寒い感じ⇒体をすくめるようにする

## <考察>

アンケート結果から、多くの児童が音楽を好きと答えている。嫌いと答えた児童の中でも、音楽の全てが嫌いというわけではなく、鍵盤ハーモニカの演奏に対して苦手意識を持っていたり、上手に歌えないことが原因になったりしていることが分かる。また、音楽の活動の中では、歌うことが最も好きであることが分かった。これは、朝の会で毎朝歌っている様子からも、楽しそうに歌う姿が見られる。普段、何げなくオルガンで曲を弾き始めると、自然に歌い出す児童が多く、いつの間にか学級全体で歌う様子も見られ、歌うことが好きな学級である。また、演奏することと聴くことが好きな児童も約半数いる。鍵盤ハーモニカに対する苦手意識をもつ児童もいるが、その一方でピアノを習っている児童も多く、休み時間になると鍵盤ハーモニカやオルガンの演奏をしている。学習の時間だけでなく、休み時間にも音楽に親しむ姿が見られることから、音楽が好きな学級といえる。

歌ったり演奏したりするときに気を付けていることに対して、最も多く上がった回答は、音の高さ(音程も含む)である。これは、アンケートを実施した直前の学習が、音の高さに気を付けて歌ったり演奏したりする内容であったからである。拍やリズムを意識している児童もおり、既習として2拍子と3拍子の学習を行った結果である。さらに、声の出し方や歌い方の姿勢を意識している児童が多く、日々歌う中で、よりよい歌声を目指して歌おうとしていることが伺える。また、聴くときに気を付けていることに対しては、聴く姿勢が最も多く、他には音の高さや拍、音の大きさ(強弱)等が挙げられた。どちらの結果からも、児童は今年度に学習したことについて意識しようとしている傾向が見られる。その一方で、歌詞に気を付けて歌ったり演奏したり、聴いたりすることを意識している児童がほぼいなかった。1年生のときに学習しているものの、本学級の児童は、歌詞のもつ意味や、歌詞から情景を想像して歌うことの良さに気付いていないことが分かった。

さらに、言葉に対するイメージと、表現の仕方に関する実態も調査した。気持ちを表す言葉をどれだけ知っているか調べたが、語彙が乏しいことが分かった。学級の全体的に、似たような言葉を使う傾向があり、言葉に広がりが無かった。一方で、「切ない」「わびしい」「こどく」といった言葉を知っている児童も数名いるため、授業で取り上げ、他の児童に広げていきたい。

また、表現の仕方については、1年生で学習した「はる なつ あき ふゆ」を基に、児童がどのように表現の仕方を工夫するか調査した。工夫の仕方で見られたのが、強弱、速度、声の感じである。児童は、歌詞から様子を思い浮かべて、生き物の体の特徴や動作から表現の工夫をしていた。声の感じについては、言葉の乏しさからイメージが膨らまない傾向があるため、言葉を広げる手立てが必要である。また、声の感じをイメージできても、それを表現するための方法を知らないため、指導する必要がある。例えば、きらきらと光る様子を表現するために、児童は「声を高くする」と考えた。実際に歌わせてみると、音程を高くするのではなく、透き通ったような声で歌おうとしていた。自分たちが表現したいイメージがあっても、言葉でうまく伝えられないという実態が浮かび上がった。

そこで、日常から様々な言葉に触れられるように、言葉カードを教室に掲示し、素地を耕しておきたい。また、「気持ちを込めて歌いたい」時は、言葉の始めに深くうなずきながら歌ってみよう、「元氣よく歌いたい」時は、口をしっかりと開けて、歌詞をはっきりと歌ってみよう等、学習の中で、助言していきたいと考える。

以上の考察から、本題材を通して、歌詞の表す様子や気持ちを想像して、歌い方を工夫することの楽しさを味わわせたいと考える。低学年で、歌詞から想像した情景をどのように表現したいか、自分なりの思いをもつことよさを経験しておくことは、中学年、高学年でより豊かな表現を工夫するための基礎となる。そして、中学校の学習で、歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌う活動につなげていきたい。

### (3) 指導観

本題材では、第一次で「人形の夢と目覚め」を鑑賞する。場面ごとの人形の様子や気持ちを想像しながら聴く活動を通して、場面の变化に気付かせたい。人形の様子や気持ちと、速度や強弱等を結び付けて鑑賞しておくことで、歌うときにも、歌詞に合わせて速度や強弱等を工夫することができることに着目させたい。

第二次では、歌唱教材「夕やけこやけ」を学習する。この曲は、1番と2番では時間が経過している。1番では、「夕やけこやけで 日がくれて」という歌詞から、夕方のきれいな夕焼けの空を想像したり、「おててつないで みなかえろ」という歌詞から、子供たちが手をつないで楽しそうに帰っていく様子を思い浮かべたりすることで、少し強く（弾んだように）歌わせたい。また、2番では、「ゆめを見るころは」という歌詞から夜であり、そして、「お月さま」「きらきら 金のほし」という歌詞から、夜空に月や星が光っている様子を想像し、少し弱く、そしてゆったりと（1番より遅く）歌わせたい。このように、1番と2番の情景の違いに気付かせることで、歌い方を工夫させたい。歌詞から様子を思い浮かべながら歌うことの良さを味わっておくことで、「海とおひさま」でも、歌詞に合わせた歌い方の工夫に着目することができ、題材を通して、歌詞を意識して歌うことが大切であることに気付かせたいと考える。

第三次では、歌唱教材「海とおひさま」を学習する。歌詞の表す様子や気持ちを想像し、それを生かして表現を工夫する活動を行う。この教材は、3番まである曲で、1番は朝、2番は夕方、3番は昼を表している。時間と共に変化していく海や波の様子を、歌詞から思い浮かべながら、それに合う表現を工夫して歌うことの楽しさを味わわせたい。表現を工夫するための手立てとして、絵や写真を活用し、海や波の様子を想像しやすくする。また、絵を描いたり、色を塗ったりするなどをして、海の色や表情を想像させることで、海の気持ちを考えながら歌うことができるようにする。その際、児童は自分の思いがあっても、うまく伝えられないことが想定される。そこで、一つ一つの発言を大切にし、実際に歌って確かめながら、思いと表現の仕方を結び付けられるようにしていきたい。そして、一つの発言を取り上げたら、全体に広げ、他の児童に言い換えさせたり、絵を使って表現させたりするなどして、イメージを膨らませ、思い描いたイメージを基に、速度や強弱を工夫して歌ってみることで、表現の仕方を考えさせたい。また、歌詞の中には、擬音語や擬態語がある。それらの語感を生かした歌い方ができるように、語感から感じ取った気分を大切にしながら歌うよう指導していきたい。

第四次の教材「小ぎつね」は、歌唱と器楽で学習する。この教材は、1～3番で季節の移り変わりと小ぎつねの様子や気持ちの変化がある曲である。歌詞には小ぎつねが会える様々な場面が描かれており、小ぎつねの気持ちを想像しやすい教材となっている。そこで、場面の变化を、速度や強弱の工夫で表し、気持ちを込めて歌ったり演奏したりするようにさせたい。本題材の締めくくりの曲として、題材を通して学習してきたことを生かして活動することで、歌詞の表す様子や気持ちを想像して歌うことの楽しさや、歌詞を大切にし、思いをもって歌うことのよさに気付かせたいと考える。

### 3 題材の目標

- 楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり思いをもって表現したりする。
- 歌詞の表す様子や気持ちを想像して、歌い方を工夫して歌う。

#### 4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞
<p>① 楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 歌詞の内容から情景や気持ちを想像し、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>③ 歌詞の内容から様子や気持ちを想像し、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>④ 階名暗唱した旋律を鍵盤楽器で演奏する学習に、進んで取り組もうとしている。</p>	<p>① 旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の表す情景や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p> <p>② 旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の表す様子や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p> <p>③ 旋律やその反復を聴き取り、その働きが生み出す面白さを感じ取りながら、歌詞の表す様子や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p>	<p>① 歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら、声の出し方に気を付けて、楽曲の気分に合った表現で歌っている。</p> <p>② 歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、工夫したことを生かして、友達と気持ちをそろえて歌っている。</p> <p>③ 歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、楽曲の気分に合った速度や強弱で旋律を演奏している。</p>	<p>① 速度や強弱などに気を付けて聴き、様子を思い浮かべたり楽曲の気分の変化を感じ取ったりしたことを言葉で表すなどして、楽曲全体にわたる気分を楽しんで聴いている。</p>

#### 5 研究の視点について

##### 【視点1】9年間を見通した学び方の共有

##### ○歌詞とじっくりと向き合い、歌詞の表す様子や気持ちを想像して歌う

中学校の学習指導要領A表現（1）アでは、「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと」をねらいとしている。そこで、学び方の基礎となる低学年では、歌詞を大切にして歌うことの楽しさに気付かせたい。低学年の児童は、聴いて歌を覚える傾向があり、歌詞をじっくりと読むことが少ない。そこで、歌う前に、じっくりと歌詞と向き合う時間を設けたい。歌詞を音読したり、歌詞の内容を表す絵や写真を見たりすることで、歌詞の表す様子や気持ちを十分に想像させたい。また、想像した様子や気持ちを、言葉だけではなく、絵や色でも表現させることで、表現の幅を広げていきたい。言葉では上手に伝えられない児童も、絵や色では想像したことを表現できると考える。一人一人の考えを大切にできるように、多様な表現方法で想像を膨らませたい。また、想像した様子や気持ちに合わせて、歌い方を考えさせることで、一人一人が思いをもって歌うことができるようにしたい。本時では、これまでの学習を振り返り、場面の様子と速度や強弱が関係していることを想起させる。そして、教材の2番では、「海が寂しい様子から考えて、弱く、ゆったりと、優しい感じで歌いたい」、3番では「海が元気に遊んだり踊ったりしているから、強く、はずんだ感じで少し速めに歌いたい」等、歌詞から様子を思い浮かべて、歌い方を工夫させたいと考える。1番と比較させながら、2番と3番の歌い方を考えさせることで、それぞれの海の様子や気持ちに合わせた表現の工夫ができ、歌詞から想像して歌うことの良さに気付くことができると考える。

6 題材の指導計画及び評価規準（9時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一次「人形のゆめと目ざめ」	1時	ねらい 人形の様子を思い浮かべながら聴く ○楽曲全体の気分を感じ取って聴く。 ・体全体で楽曲の気分を感じ取る。 ・気付いたことや想像したことを発表する。 ○四つの挿絵を基に、場面の変化に気付いて聴く。 ・場面ごとの人形の様子を想像しながら聴く。 ・場面ごとの人形の様子や気持ちを発表し合う。	楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
	2時	○楽曲の気分の変化を感じ取って聴く。 ・楽曲の気分が変わったところで挙手をする。 ・楽曲の気分の変化について発表し合う ・楽曲の気分の変化を感じ取りながら楽曲全体を聴いて楽しむ。	速度や強弱などに気を付けて聴き、様子を思い浮かべたり楽曲の気分の変化を感じ取ったりしたことを言葉で表すなどして、楽曲全体にわたる気分を楽しんで聴いている。(鑑賞の能力)
第二次「夕やけこやけ」	3時	ねらい きれいな夕やけの様子を思い浮かべながら、歌い方を工夫する。 ○歌詞の表す情景を想像しながら歌詞唱する。 ・範唱を聴いて、楽曲の気分を感じ取る。 ・歌詞を音読したり範唱を聴いたりして、夕焼けの様子を思い出したり想像したりし、どのような気持ちになるか話し合う。 ・歌詞の表す情景を想像しながら歌う。	歌詞の内容から情景や気持ちを想像し、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
	4時	○歌詞の表す情景を想像して、歌い方を工夫する。 ・歌詞を丁寧に音読して、さらに深く情景を想像し、自分の表したい思いをもつ。 ・想像した情景に合った声の出し方や発音の仕方を工夫する。 ・1番と2番の歌詞の時間の経過に気付く。 ・1番と2番の情景の違いに気付く、歌い方を工夫する。 ○旋律の流れを感じ取り、曲の山に気持ちを込めて歌う ・曲の中で一番気持ちが盛り上がり、強く歌いたくなる部分を見付け、気持ちを込めて歌う。	旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の表す情景や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。 (音楽表現の創意工夫) 歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら、声の出し方に気を付けて、楽曲の気分に応じた表現で歌っている。 (音楽表現の技能)
第三次「海とおひさま」	5時	ねらい 歌詞を大切に、歌詞の内容や楽曲の気分に応じた歌い方を工夫する。 ○様子を思い浮かべながら範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・挿絵を見て、様子を思い浮かべながら範唱を聴く。 ・範唱に合わせて体を動かし、3拍子の拍の流れを感じ取る。 ○声の出し方に気を付けて歌詞唱する。 ・範唱に合わせて歌う。 ・様子を思い浮かべながら伴奏に合わせて歌う。	歌詞の内容から様子や気持ちを想像し、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
	6時	○1番から3番の時間帯の違いや、海の気持ちの違いに気付く。 ・歌詞をじっくりと読み、歌詞から思い浮かべた海の様子や、曲を聴いて感じたことを発表する。 ・範唱を聴いたり、歌詞を音読したりして、1～3番では場面がどのように変わったかを話し合う。 ・思い浮かべた海の様子を色や絵で表す。 ○歌詞の内容や楽曲の気分に応じた歌い方を工夫する。 ・1～3番で強弱を工夫して歌う。	歌詞の内容から様子や気持ちを想像し、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度) 旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の表す様子や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。 (音楽表現の創意工夫)

	7時 (本時)	<p>○歌詞の内容や楽曲の気分に合った歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞の学習や前時を振り返り、場面や様子の変化に合った歌い方を工夫するための視点に気付く。 (速度、強弱、声の出し方)</li> <li>・歌詞の内容から、時間の変化、海や波の様子などの変化を捉え、速度、声の出し方や発音を工夫する。</li> <li>・歌詞の語感を生かした歌い方を工夫する。</li> </ul> <p>○工夫したことを生かして、気持ちをそろえて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と声を合わせ、気持ちをそろえて歌う。</li> </ul>	<p>旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の表す様子や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p> <p>(音楽表現の創意工夫)</p> <p>歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、工夫したことを生かして、友達と気持ちをそろえて歌っている。</p> <p>(音楽表現の技能)</p>
第四次「小ぎつね」	8時	<p>ねらい 小ぎつねの様子を思い浮かべながら、楽曲の気分に合った歌い方や演奏の仕方を工夫する。</p> <p>○楽曲の気分を感じ取って歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を見て様子を思い浮かべながら範唱を聴く。</li> <li>・1～3番の季節の移り変わりとおぎつねの様子や気持ちの変化を捉える。</li> <li>・範唱や伴奏に合わせて歌詞唱する。</li> </ul> <p>○楽曲の気分に合った歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞を朗読したり、小ぎつねの様子をまねたりして、イメージを膨らませる。</li> <li>・1～3番の歌詞の表す気持ちに合わせ、速度や強弱を変えて歌い方を工夫する。</li> <li>・二人一組になり、反復の部分の歌い方を工夫する。</li> </ul>	<p>旋律やその反復を聴き取り、その働きが生み出す面白さを感じ取りながら、歌詞の表す様子や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p> <p>(音楽表現の創意工夫)</p>
	9時	<p>○フレーズを感じながら旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱を聴いて階名模唱したり、楽譜の階名を読んで階名唱したりして、旋律を階名暗唱する。</li> <li>・運指を確認して、鍵盤ハーモニカを練習する。</li> <li>・階名暗唱した旋律を鍵盤ハーモニカで分担奏する。</li> <li>・全体を通して鍵盤ハーモニカで演奏する。</li> </ul> <p>○速度や強弱に気を付けて、気持ちを込めて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫したことを生かして、友達と声や音を合わせて歌ったり演奏したりする。</li> </ul>	<p>階名暗唱した旋律を鍵盤楽器で演奏する学習に、進んで取り組もうとしている。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、楽曲の気分に合った速度や強弱で旋律を演奏している。</p> <p>(音楽表現の技能)</p>

## 7 本時の学習（7／9）

### （1）本時の目標

○歌詞の表す様子や気持ちを想像し、歌詞の内容や楽曲の気分に合った歌い方を工夫する。

### （2）展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準（評価方法）
4分	1 「海とおひさま」を歌う。 ・前時を振り返り、1番～3番では、時間の変化や、海や波の様子や気持ちに変化があることを確かめる。 ・様子を思い浮かべながら強弱の変化をつけて歌う。	○教師のかかわり ◆評価規準（評価方法） ○前時で使用した挿絵を掲示し、様子を思い浮かべやすくする。 ○前時の学習を振り返り、1番～3番で強弱の変化があったことを想起させる。 ○強弱の変化以外にも、歌い方の工夫ができることに着目させ、学習の見通しをもたせる。
1分	2 本時の目標をつかむ。	
	歌しを読んで、海の気持ちをそうぞうして歌おう。	
12分	3 歌い方を工夫するためのポイントを確認する。 <b>【歌い方のポイント】</b> ・強さ、弱さ ・速さ ・声の出し方 (前時に学習) (優しく、明るく等) ・表現の仕方を話し合い、実際に歌いながら歌い方を確かめる。	○鑑賞の学習や「夕やけこやけ」の学習を想起させ、表現の工夫と強弱や速度、声の出し方が関係していることに気付かせる。 ○児童の発言や事前に描いた絵を基に、表現の仕方について考えを広げる。 ○全員で歌い方の工夫の仕方について考えておくことで、グループ活動でのヒントとなるようにする。
10分	4 グループごとに、歌い方の工夫をする。 ・1番と比べながら、2番と3番についてグループに分かれ、歌い方の工夫をする。 ・海の様子や気持ちを表現している言葉に着目し、速度や声の出し方を工夫して、拡大した歌詞に工夫ポイントカードを貼る。	○拡大した歌詞と工夫ポイントカードを用意し、工夫したことを視覚化できるようにする。 ○各グループに一人鍵盤ハーモニカを持たせ、出だしの音を弾かせることで、歌いやすくする。 ◆旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の表す様子や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。(音楽表現の創意工夫)〈観察〉
10分	5 グループごとに発表する。 ・発表する前に、拡大した譜面を見せながら、工夫したところを伝える。 ・聴いていた児童は、感想を話す。	○グループが考えた工夫に合わせて、伴奏の速度や強弱を変える。 ○聴いていた児童に感想を発表させることで、工夫した点をしっかりとおさえる。
5分	6 全員で工夫した点を生かして、「海とおひさま」を歌唱する。 ・歌う側と聴く側に分かれ、交互に聴き合うことで、歌詞の内容によって、速度や強弱、声の出し方が異なっていることを実感する。	○1番～3番までを通して歌わせることで、速度や強弱、声の出し方の違いを明確にする。 ○学級を2つに分けて、聴き合いをさせることで、工夫した点を確認できるようにする。 ◆歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、工夫したことを生かして、友達と気持ちをそろえて歌っている。 (音楽表現の技能)〈聴取〉
3分	7 本時の学習を振り返る。	○今日の学習で学んだことを発表させる。

